

○「京田辺市三山木地区連がスタート」

(京都府京田辺市第1回三山木地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化遊休農地の
発生防止・
解消新規参入の
促進その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

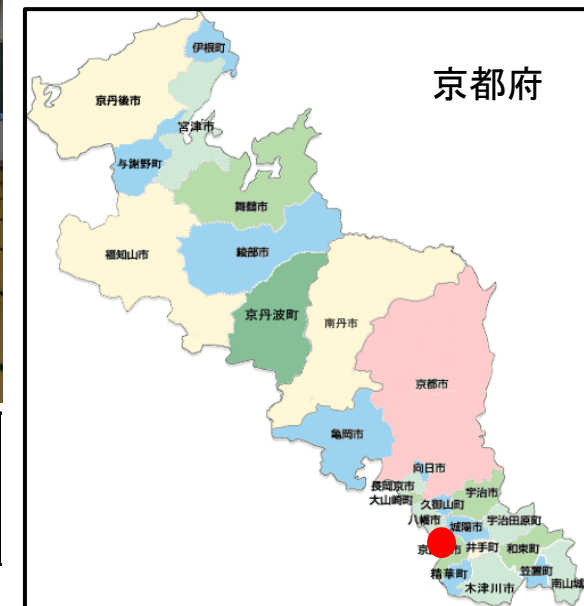
- 日時(時期): 平成30年8月27日19:30～21:30
- 場 所: 京田辺市三山木山本公民館
- 出席者: 委員4人、委員以外7人
農業会議多田補佐
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している。

○水稻を中心になす、玉露、てん茶、えびいもなどが栽培されているが、生産者の高齢化により生産力が低下してきている。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 今は、退職Uターン農家が農業を担っているが、10年後を見ると担い手がなく、農地を誰が守るのか不安。
- 農地を守るために、集落営農を呼びかけるが、全体の取組となっていない。
- ライスセンターをつくろうという声があるが、水稻を担う若手や地域を引っ張るリーダーがいない。
- 米だけでは儲からない、野菜を栽培したいが、水が浸く時があり難しい。
- 農地を預けると農地所有者は何もしない、米は草刈りがたいへん、草刈りは誰がするのか。
- 米だけでなく、なす、えびいもなどトータルで考えないといけない。
- 真剣に考えないと都市近郊の農地はなくなるなど、三山木地区の現状について情報共有ができた。

4 活動結果

- | | | |
|-----------|---|----|
| ○ 情報・意見交換 | 2 | 時間 |
| ○ 担い手への集積 | a | 増加 |
| ○ 遊休農地面積 | a | 解消 |
| ○ 新規就農者 | 人 | 支援 |